

会議要旨

会議の名称	令和6年度 第1回おいらせ町まち・ひと・しごと創生総合戦略会議	
日時	令和6年8月9日（金曜日）15時00分から16時10分まで	
場所	おいらせ町役場本庁舎 庁議室	
出席者等	委員	<p>【出席者】（9人）</p> <p>平井 太郎（会長）、関 和洋、柏崎 尚久、高田 雅史、高淵 華奈子、志村 博、佐々木 秀智、佐々木 寿子、遠藤 剛</p> <p>【欠席者】（2人）</p> <p>槇 公彦、中村 綱吉</p>
	事務局	<p>政策推進課</p> <p>課長 田中 貴重、課長補佐 川原 真栄子、主任主査 馬場 祐二</p>
傍聴者数	0名	

1. 開会

※事務局の進行で開会。（15：00）

2. 会長あいさつ

発言者	発言内容
平井会長	大変暑い中、お集まりいただきありがとうございます。おいらせ町は昨年度から総合戦略の推進体制を見直しており、その中で今日もおいらせラボという、委員の有志の方で新しい企画を話し合う会議を開催していました。今回の戦略会議からは、3名を新しくお迎えしますので、ますます活発な意見を出していきましょう。

3. 案件

（1）副会長の選任について

立候補、推薦を募ったが意見等はなく、事務局案として、昨年度まで副会長を担っていた中嶋真理子委員の後任となる厚生労働省青森労働局三沢公共職業安定所の槇所長にお願いすることとなった。

(2) 第3期おいらせ町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定方針及び おいらせ町人口ビジョンの改訂について	
発言者	発言内容
事務局	<案件(2) 第3期おいらせ町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定方針及びおいらせ町人口ビジョンの改訂について説明>
平井会長	何か皆さんの方から質問等はありませんか。
委員	意見なし
平井会長	では、あおもり創生総合戦略のポイントについて、青森県庁の上北地域県民局の関リーダーより補足説明等があればお願いします。
委員	あおもり創生総合戦略は、今年の3月に完成しました。青森県の基本計画も今年度から5か年で策定されましたが、その中であおもり創生総合戦略は人口減少対策に関するアクションプランとして策定されました。あおもり創生総合戦略の政策分野は3つあります。まず①「所得向上と経済成長につながる魅力ある多様なしごとづくり」は、県内大学や県内高校を卒業した方の県内就職内定率をアップさせる目標となっています。次に②「こどもの健やかな成長、県民一人ひとりの健康づくり」は、県内の合計特殊出生率を2.0に近づける目標となっています。最後に③「持続可能な地域づくり」は、人口減少を緩やかにするための18歳～39歳の県外転出を今よりも減らし、Uターンを含めた転入者を増やす目標となっています。
平井会長	おいらせ町は、青森県内ではまだ人口減少が進んでいない自治体ではありますが、これから人口が2万人を切っていくことが予測されています。おいらせ町の人口減少について、何か確認したいことはありますか。
委員	今年はおいらせ町を含めて近隣市町村の賃貸物件が過剰になっており、空き物件の借り手が見つからない状況になっています。原因はまだ分かっていませんが、人口減少の影響で人口より建物の方が過剰になっているのかもしれない。
平井会長	人口減少が進んでいる中で、これまでと同じような宅地開発をしてはいけないのかもしれない。またデジタル化の影響により、人の流れが変化したことも考えられます。
委員	日本全体の人口減少を変えることは難しいですが、おいらせ町だけなら人口の維持または減少を緩やかにできるのではないかと感じています。おいらせ町は、住みこちランキング等でも上位に入るほどの良さを持っています。町民の幸福度を高め、おいらせ町の住みこちの良さを外にPRをすることで、東北の中でも消滅しない自治体になるのではないかと思います。おいらせ町の強みは、新幹線、飛行機、船が近場にあること、お店が多いので買い物に困らないこと、子育て支援に力を入れていること、土地が安いことだと思います。これらをブラッシュアップすることで転入者を増やし、町民が首都圏に出ていかないような魅力づくりも大切になってくると思います。そうすると企業誘致やリモートワーク等の地方での仕事づくりにも力を入れていかななくてはならないと思います。

平井会長	イオンモール下田周辺等の土地利用の状況はどうか。
委員	新庁舎と新病院がイオンモール下田に周辺に建設されますので、ソフト面とハード面を結び付けた暮らしやすいまちづくりを検討できると思います。例えば、医療機関を集約したり、バスターミナルをつくったりとあらゆる可能性を、地域の方々とイオンモールが連携して、一緒に考えていければ良いのではないのでしょうか。
平井会長	そういったことも大切になってきます。他に何かありませんか。
委員	若い人は魅力を感じないと思いますが、高齢になって運転ができなくなった時に、病院は一か所に集まっていると便利だと思います。私は若い人が一度外に出ても良いと思っています。それよりも、外で経験を積んで、その後戻ってきてくれる、戻ってきたいと思えるような魅力をまちにつくるべきだと思います。その際、就職先がとても重要で、首都圏にある会社や職種を地域につくるのが大切ではないのでしょうか。
平井会長	大学生も県内にない職種、就職先を求めて、首都圏に就職しますが、その後青森県に仕事をもって帰ってきてくれる卒業生もいます。地域が気持ち良く県外に送り出して、その後帰ってきてくれたときに歓迎するような体制も今後重要になってくると思います。
委員	青森県には、ねぷた等の魅力的で大きな祭りがありますが、その時の人の流れは一時的なもので持続性がなく、さらにコロナウイルスや円高等の影響を大きく受けてしまいます。資料6ページの人口推計を見た時に、青森県の人口に対するおいらせ町の人口比率は、2030年は2.16%、2040年は2.34%、2050年は2.53%と人口は減っていても人口比率は増えています。これは住みやすいまちとして、おいらせ町が選ばれているからだと思います。おいらせ町唯一の高校である百石高校の生徒の居住地の割合は、おいらせ町は40%、近隣市町村が60%となっています。町民からも選ばれている高校でもありますが、近隣市町村から通う生徒が多いことも活かしていきたいです。また県内高校の授業の一つに、生徒が自ら考える総合的な探求の時間があります。その中で生徒たちが青森県の魅力を発見し、青森県をより好きになる「あおり創造学」を、青森県の教育委員会からの指示のもとで進めています。町と百石高校も強く連携しており、これから地域おこし協力隊員からの支援も検討しています。その他、百石高校の生徒にはアルバイトを推奨しており、働くことの大切さ、町の魅力の発見、人間関係の構築の醸成にもつながっています。その際、町内の事業者にも協力してもらっていますが、今後も百石高校と事業者の信頼関係も大切にし、続けていきたいです。補足になりますが、総合的な探求の時間の充実のため、三菱未来育成財団に応募し、青森県で唯一支援を受けることが決定しました。その支援のおかげで、町のおいらバスを活用したフィールドワーク行い、生徒たちが自ら町の魅力を発見する授業を行うことができ、より町に愛着をもつことができています。百石高校では、約100人中70人が地元就職を希望しています。しかし、町内の就職先は少ないため、八戸市や三沢市に就職しなくてはならない状況ですので、町でも企業誘致等を検討してほしいと感じています。百石高校には、八戸市の工業系の会社からの求人が多数きています。これは県内の工業系の大学、学生が収入の多い首都圏の会社に流れているためです。この状況を上手く活用できるよう、話し合っていきたいと思っております。

事務局	人口ビジョンに関連しますが、令和3年に町の都市計画が大きく変更されて、「おいらせ都市計画」になりました。この変更に伴い、土地の利用方法が大きく変わるため、今後の人口動態に影響が出ることが予測されます。もし可能であれば、「おいらせ都市計画」を考慮した人口ビジョンの作成も検討したいです。
平井会長	次回の会議の際には、「おいらせ都市計画」について補足いただきたいです。今回の会議でもたくさんの意見が出ました。総合戦略の審議の際には、このような部分について、話し合っていきたいと思います。

(3) デジタル有識者等の参画について

事務局が資料のとおり説明。質問等もなく、承認された。

(4) おいらせラボの実施状況について（報告）

事務局が資料のとおり報告。質問等もなく、引き続き継続することで承認された。

4. その他

発言者	発言内容
事務局	その他、何かありませんか。
委員一同	なし

5. 閉会

※閉会する。(16:10)